

海からのメッセージ

～ 「君に届く、海からの声が！！」 ～

- 1 趣 旨 鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、海の良さを知り、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 2 期 日 令和元年8月3日（土）～9日（金） 6泊7日
- 3 参加対象 小学5・6年生，中学生，高校生（心に悩みをもつ児童・生徒を含む。）
- 4 募集定員 32人
- 5 参加者 32人（小学生15人，中学生10人，高校生7人）
- 6 指導者 外部指導員5人 国立大隅青少年自然の家8人 ボランティア11人
- 7 日 程 【全行程（約60km）をカヌー（天候によっては徒歩）で実施】

日 時	移動区間（予定）	宿泊場所（予定）	移動距離
8月3日（土）	国分海浜公園（練習）～福山港（カヌー）	福山小学校 （体育館）	約 5 km
8月4日（日）	福山港～道の駅たるみず（カヌー）	松ヶ崎小学校 （体育館）	約 16 km
8月5日（月）	海潟さくら公園～柘原港～新城海の家 （バス移動→カヌー） 鹿児島海づくり協会「学習・施設見学」	自然の家本館 （台風接近のため、 柘原港までカヌー 実施）	約 15 km
8月6日（火）	新城海の家～高須海水浴場（カヌー・バス）	自然の家本館 （台風接近のため、 カヌー中止）	約 12 km
8月7日（水）	鹿屋体大海洋スポーツセンター「海洋学習，体験活動」 （徒歩・バス）	新城海の家 （徒歩中止）	
8月8日（木）	高須海水浴場～新城海の家（カヌー）	新城海の家 （強風のため、カヌー 中止）	約 12 km
8月9日（金）	新城海の家でふり返り		12:00 解散

8 事業の企画・運営

- (1) カヌーの距離を昨年度より短縮し、「かごしま豊かな海づくり協会」での学習、「鹿屋体育大学海洋スポーツセンター」での海洋体験学習を取り入れ、挑戦・学習・体験の3つを今回のテーマとした。
- (2) ルート設定後、職員の現地踏査や外部指導員との相談を重ね、危険箇所の確認を十分に行った。
- (3) 32人の参加者を8人×4班の編成とした。監視艇及び救助艇4艇を各班に分けて監視することで、参加者の安全面に十分配慮した。
- (4) 各市（鹿屋市、垂水市、霧島市）や関係機関（海上保安部、漁業協同組合、警察署、消防署、小学校、病院）と連携を密にし、活動中の安全対策を万全にした。
- (5) 昨年度までは、最終日を除いてレトルト食品が主だったが、新城海の家を宿泊場所にしたことで野外炊飯を食事のメニューに入れることができた。

9 事業の実際

1日目（3日）に再乗艇・曳航の確認を練習の中に取り入れたが、強風で思うようにできなかった。参加者のカヌー経験を積む上でも1日目に練習の時間を多く入れ、短い距離（5 km）にチャレンジさせたのはよかった。

2日目(4日)は、晴天で海の状態もよく、30分おきに水分補給をとらせるなど熱中症対策を行った。パドル操作も徐々に慣れてきて、全員が最長距離である16kmを漕破ることができた。

3日目(5日)は、台風の影響で残念ながら柘原までの10kmしかこげなかったが、海づくり協会で養殖について学ぶことができ、真剣に話を聞く姿が見られた。また、急きょ少年時代に単独太平洋ヨット横断を成功された高橋さんの話を聞くことができ、海の楽しさ・大変さを知るいい機会になった。学ぶことで海を感じる1日となった。

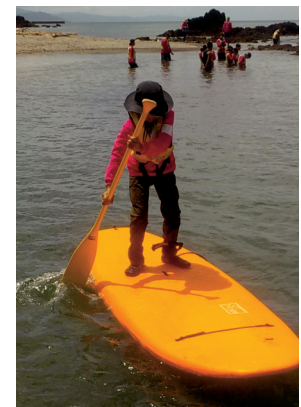
4日目(6日)は、本館で遊びリンピックやスポーツライミングを行い、仲間意識がより一層高まった。スポーツライミングやニュースポーツでは、仲間のがんばりを認め、励まし合う姿が見られた。また、遊びリンピックでは、グループで協力しながら楽しみ、笑顔が絶えない活動となった。

5日目(7日)は、天気も回復し、海洋スポーツセンターにて体験活動を実施することができた。ヨットやサップの体験は初めての参加者がほとんどで海を満喫していた。

また、スノーケリング・磯観察ではさまざまな生き物を見つけ、活動に熱中していた。まる1日を海洋スポーツセンターでの体験活動にしたことで、カヌーが苦手な参加者も海の良さ・素晴らしさをより感じる事ができた。

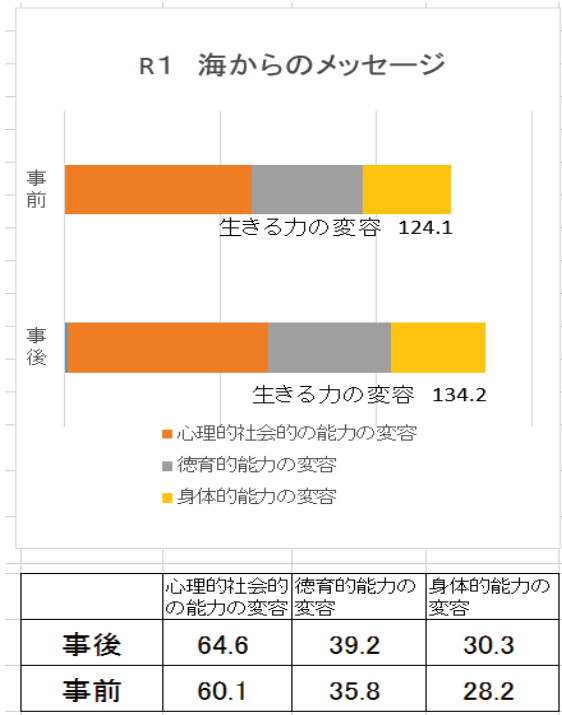
6日目(8日)は、カヌーで競争を実施したが、強風で短時間しか体験できなかった。片付けは時間があったので確実にでき、大変よかった。また、夜のキャンプファイヤーは班毎にがんばっていた。ボラが司会進行を行い、最後は仲間の大切さについて話をしてくれ、しみりとした雰囲気になり、最後の夜を過ごすことができた。

7日目(9日)は、海と向かい合い、無言で7日間を振り返らせた。感想発表は、グループで行い、代表者が全員の前で発表した。また、各グループでボランティアへ感謝の言葉を発表させる時間を設けたことでボランティアも喜んでいた。



10 アンケート結果（参加者 I K Rアンケート）

生きる力の変容を見ると、事前から事後にかけて10.1ポイント向上し、有意差が見られた。中でも「洗濯機でなくても手で洗濯できる」で0.84ポイント、「だれとでも仲よくできる」で0.65ポイント、「自分で問題点や課題を見つけることができる」で0.58ポイント上昇するなど全ての項目で事前と事後とで意識の向上が見られた。これは、6泊7日という長期宿泊体験を通して、多くの仲間と接し、コミュニケーションを取ることの大切さを学び、普段の生活と違って、自分自身を見つめる時間が多々あったことで、自己の課題を発見し、それに対してどう対応するべきか考えることができた結果ではないかと思われる。スマートフォンやパソコンなどに囲まれた生活から一時期ではあれ、離れた生活をしたことで他者との関わりの機会が増え、自己肯定感が高まったことも要因の一つに挙げられる。



11 参加者・保護者の事業後の感想

(1) 参加者の感想

- ・ カヌーはペアの人と声をかけ合いながら漕ぐことができた。16km進むのは大変だったけど、協力することができたのでよかったです。
- ・ 楽しい時間はあっという間でした。今まで自分はいやなことから逃げてばかりでした。もちろんいやなこともありました。7日間を乗り越えることができたので、少しでも自分の自信になればと思っています。
- ・ 最初は「早く終わらないかな」「スマホ触りたい」「帰りたい」などネガティブな気持ちだったが、やっぴくうちにがんばろうという気持ちになった。カヌーでは、海の強さ・偉大さを知り、海は生活を支えることもあれば、時には苦しめることもあって、海の強さを感じました。
- ・ 海洋スポーツセンターでヨット、サップ、スノーケリングなど初めて経験すること、初めて知ることがたくさんあって、すごく刺激的でいい経験ができました。

(2) 保護者の感想

- ・ 集団生活に心配がありましたが、たくさんの経験をすることができ、本人の財産になりました。カヌーだけでなく、ヨットや室内での活動などあんなに目をキラキラさせて話してくれたことにうれしく思いました。
- ・ 6泊7日という長い期間、洗濯なども自分でしながら親元を離れて過ごすことができたというのは、本人にも自立への自信がついたように思います。
- ・ 甘えたり、いじけたりすることがなくなり、やりたいことをやり抜く、そのために努力する、人のせいにしない、そんな姿を見えています。友達とここまで仲良くなれるのかと本人も驚いた様子でした。

12 成果

- 今年度は、カヌー・徒歩による挑戦だけでなく、稚魚の養殖についての学習、鹿屋体育大学 海洋スポーツセンターでの体験活動を取り入れた。海の良さや素晴らしさの感じ方は個々によって違うので、さまざまな面から海からのメッセージを感じさせるといったプログラムはよかった。